

走姿 顕心

チームテーマ：そうしけんしん

『走っている姿にはその人の心が表れる』という意味です。これに加えて活動する姿勢や立ち振る舞い、プレーしている姿からクラブが大事にしていることが見ている人や対戦したチームにも伝わるような活動にしていこうと皆で話しました。アバンツアーレは動き続けます。チャレンジすることを続けていきます。今後の彼らの姿、成長にご期待ください。



新人チーム活動近況報告①

新人戦も予選リーグが終わり、予選の結果から試みとなった試合のスカウティング、月2回実施したチームミーティング・勉強会を通し選手たちは刺激となったようです。ある選手からは、スカウティング後の3時間の練習の過ごし方について提案がありました。チームには今、体力、走りきる力が足りない。という考えから1時間ずつ2グループに分けて走らせてほしいと申し出がありました。良いことだと思います。彼らが自分たちのチーム作りに取り組み出したと感じた一言でした。その一言を待っていたかのようにコーチからも走力とその持続力というテーマを持ってトレーニングしています。



新人チーム守備 (SB)の要コンビ紹介



及川 大翔 (2年)



宮崎 健登 (1年)

お互いの印象はどうか？

大翔くんは、前に運ぶドリブルが上手な選手だと思えます。それにボールを奪われることが少ないので一緒にプレーして頼もしい。



優しい人(笑)ボールを奪うのが上手でボールコントロールも上手い。健登くんが攻守でうまくバランスをとってくれて頼もしい。

新人チームはどうですか？

中央から裏へのパスが起点となることが多いが、これから攻撃パターンを増やしていきたい。自分が後ろから盛り上げていきたい。



声も出ていて面白いサッカーが出来ている。失点するときがあるの僕がチームを盛り上げたい。



活動近況報告②

11月7日、高円宮杯全日本ユース東北大会を観戦してきました。チームとしてスカウティングに試みしました。試合会場では4グループに分かれて1つの試合を2グループでスカウティングして各グループでまとめて提出する。といった方法で実践してみました。

スカウティングと聞くと一般的に『偵察』や『勧誘』の意味を思い浮かべます。選手たちに求めているスカウティングは観客としての目線ではなく、ピッチ目線での観戦をして、『試合観』を磨いてほしいと考えてのことです。試合の中では状況を把握し、判断する力が求められます。そのため『判断を速くするため』にスカウティングに取り組みます。

先に『偵察』の意味あいについて話しましたが、スカウティングをすることで確かに事前の準備を整えることはできます。1つ目に相手の長所を消す、2つ目に相手の弱点を突く、3つ目に試合の展開を予測する、試合の流れを誘導。しかし、情報収集に力を注ぎあまり先入観も邪魔します。スカウティングを否定しているわけではありません。強豪チームを目の前にしてチームの名前と勝負するかのようになってしまう選手も数多く見てきました。名ばかり気にするのではなく、同世代の選手が相手なのは変わりありません。選手たちに求める試合観とは、試合開始と同時に相手チームの戦術を感じとり、チーム全体として状況に応じて求められているプレー判断を選手個人でもチームでもピッチ上ですべてミーティングされているようなレベルにまで上げていきます。選手たちとあらゆることにチャレンジしていきます。アバンツアーレの姿勢がそうであるように、選手全員でチーム強化に取り組みます。



評価の高かったレポートをいくつか紹介



塩釜FC vs MIRUMAE

019	010	079	074
05	019	067	071
04	07	075	063
03	08	090	065

1 前半 0
2 後半 2
9 TOTAL 2

○ 気付いたこと

- ロングボールを使い裏をならう回数が多かった。
- ロングパスは相手陣で使った。ロングパスは自陣で使った。
- 声も大きくなり、いい声が出た。
- チャレンジ＆カバーができていて、とられず、すかさず取り返していた。
- 立ち上がり、90分が初めと一緒だった。
- ロングボールが多かった。
- かんとく、踏んでた。なせなら、いつもそのサッカーで走ってないらしい。(前半)
- GKの声も、響いてた気がする。
- 番付2、けりとはいてた。

○ 褒めたい特徴

- ワイドからの攻めが多い。
- 声も出ていて面白いサッカーが出来ている。
- 失点するときがあるの僕がチームを盛り上げたい。

シュート数

塩釜FC	MIRUMAE	塩釜FC	MIRUMAE
④ 正	④ 正	④ 正	④ 正

○ コーナーキック

塩釜FC	MIRUMAE	塩釜FC	MIRUMAE
④ 正	④ 正	④ 正	④ 正

○ 試合評価

この試合を見て、我々のチームによく特徴を出していたと思う。1-0で勝利した。後半からボールを奪はれ、スコアが追いつけず、レベルの高いチームと対戦した。この試合を通じて、相手チームの強さを学び、自分たちの弱さを認識し、今後の練習に活かしていきたい。

👉 チームの特徴をよく観れているレポートでした。

今回、紹介されたグループ選手のみなさんは申し出てください。紹介されたグループにはコーチから何かあるかもしれませんが、でも、忘れてはならないことは、強化に取り組むことが第一です。日頃のチームとしてやるべきことの姿勢と質を下げることのないように個人としてもチームとしても平日の練習からトレーニングに対する自分のプレーとの向き合い方もこれを機に高いレベルを求めて活動していきましょう。

フットボールレポート

試合日 11月7日 会場 仙台市太白区西中田5-9-5-101

対戦相手 塩釜FC vs MIRUMAE

試合結果 1-0 (勝利)

試合内容

- 前半は相手のペースで、自分たちの攻撃は少ない。
- 後半は相手のペースで、自分たちの攻撃は少ない。
- 後半は相手のペースで、自分たちの攻撃は少ない。



ジュニアユースの歴史を知る選手から

みなさん、現在ではチームも人数にも恵まれ、練習する場所もなんとか確保できるようにまでなりました。しかし、これまでの成績と現在の1部リーグ昇格という偉業を成し遂げた選手たち以前に活動していた先輩たちの活動について知っている選手はごく僅かです。コーチですらその彼らから活動の苦勞を聞いたぐらいです。今で起きている活動が当たり前ではなかった。その当時の活動を知る、ジュニアユースの礎を築いた1期生の菅原くんからこのかわらばんを通して伝承してもらいたいと思います。ジュニアユースの歴史に触れてみましょう。

1期生であるチームを1から創るといふ楽しさと大変さがありました。自分ももともとアバンツァーレのジュニアチームに所属していて、ももとは中学の部活に入る予定でした。ジュニアユースチームの設立が決まり、説明会に参加して入ることに決めました。決め手は、1からチームを創ってみるという経験はなかなかできないだろうということ、文武両道という目標がカッコいいなと思ったこと、アバンツァーレというチームでもサッカーをしていきなかつたということが大きかつたように思います。

1からチームを創るといふことで、特に1年目は苦勞が多かつたです。まず、先輩がいなかつたということ。これはある意味うれしかつたことでもありますが、試合の面では特に大きな差であつたと思います。なぜなら、公式戦の相手はほとんど学年が上で、中学3年生と中学1年生では体格差と経験差はやはりはっきりしてゐたからです。ウソかと思うかもしれませんが20点以上入れられて負けるという試合もありました。

次に、人数が集まらなかつたということ。1期生は当初9人だつたため、練習の回数は少なく、公式戦はジュニアチームから人もユニホームも借り、間に合わない人がいて10人で試合開始したこともありました。練習試合もコーチに出してもらつたり、保護者の方々相手になってくれたりといった感じでした。試合をするといふだけでものすごく多くの方々に応援されていたのだなとこれを書いていて思ひました。この場を借りてコーチ、チーム、保護者チームの方々本当にありがとうございますといひたいです。

もちろん良かったことや楽しかつたこともたくさんあります。前述の苦勞した点も、裏を返せばたくさん公式戦の経験をできたといひえます。また、文武両道を掲げたチームだつたので、練習の前には勉強がありました。サッカーをし、勉強し、旧事務局長の近くで雑魚寝した合宿もありました。これは少人数じゃないとできなかつた思い出です。

2、3年生になると後輩が入ってきてくれたおかげで人数がいきなり増えました。部活とは一味違つて変な上下関係はなしでため口でいこうというルールでしたが、これも本当に仲のいいチーム作りの基になつたと思います。最終的には、20点以上入れられて負けていたチームが試合に勝てるようになっていきました。最終的にはFC宮城のような強くて伝統もあるチームに負けてしまつて引退となりましたが、戦えるチームを創れたことは誇りに思ひます。

思ひ返せば思ひ返すほどにアバンでジュニアユース時代を過ごしたことで得られたものは多かつたです。サッカー面では基礎からしっかり練習を積み高技で活動していくための技術の基礎になつたと思ひています。生活面では勉強の習慣を身に付けたりと、これもまた、その後の僕の人生において役立つ能力を身に付けられたと思ひます。現在のアバンツァーレは、小さいながらも専用の練習場を持ち、人数も充実し、1期生の僕らの時代よりも良い成績を残しているといひ聞いてます。ぜひ！環境に感謝しながら、僕らが関わり大事な時代を過ごしたアバンツァーレをもっともっと強くしてくれたらと願つています。

アバンツァーレジュニアユース 第1期生
キャプテン 菅原 和貴

アバン出身選手から選手みなさんへ

皆さんにどうしてもお知らせしたかつた出来事です。10月21日に松島フットボールセンターで行われた、カメイカップ2015でアバン出身の大槻翼くんといひました。翼くんと再会した瞬間の印象を礼儀があり誠実さのある好青年。口調も柔らかく、丁寧な受け答えをしてくれました。翼くんがアバンで活動していた頃の思い出も話してくれました。当時、一緒に活動していた懐かしい選手の名前もすらすら出てきて当時を振り返りながらしばらく話しました。翼くんは、現在もサッカーを続けています。驚いたのは審判としても活動していたことです。当日も審判着の時に対面したわけです。そんな翼くん、試合後にもまた大会の4級審判員 大槻 翼くん 視察と審判員の視察を兼ねて来場していた2010年、FIFAワールドカップ南アフリカ大会で主審を務めた西村雄一さんから直接、お話を頂いたので、とても興味深いので、今回は一部ではありますが、どんなことを指導いただいたのかを今回、選手・保護者皆さんにもご紹介したいと思ひます。



西村さんから聞いたお話です。

<レフェリーファミリーの仕組み>

世界中のサッカーファン



丁寧に誠実な口調で話してくれる翼くん

インストラクター

西村 雄一 氏

審判が世界中のサッカーファンを直接的に感動させることはできないが、選手が輝くプレーをするためにサポートするのが主審のつとめ。

その主審を支えるのは副審のつとめ。そして、審判を支えるのがインストラクターの務めであり、間接的にはあるが、サッカーファンに感動を与えることもできる！

『リフティング研究部』

「コーチたちを驚かすスゴ技！待ってます！」

選手同士でのオリジナル感たつぷりのスゴ技でもOKです！
コーチの前で成功すればクリア！

「コーチから何かプレゼント」

選手が出してくれた課題は、直接聞か、実際にやっている動画をホームページで見てください！アバン公式ホームページの「What`new」にプレー動画をアップしています。

